



▲初寄港したサン・プリンセスの出港を見送る市民の皆さん（5月15日）



▲利便性の高まりが期待される高速・広域交通網



▲ポーツマス市（英国）のフランク・ジョナス名誉市長と歓談する生徒

「海の京都」の弾みとなるよう取り組んでいきます。

姉妹都市・友好都市との国際交流
平成23年は、ナホトカ市（ロシア）と姉妹都市を提携してから50周年という節目の年でした。また、平成24年は、大連市（中国）と友好都市提携30周年を記念し、市の代表団や市民訪問団が大連市を訪問しました。そして、今年からは、ポーツマス市（英国）と姉妹都市提携15周年にあたり、市の代表団が同市を訪問したところ。今後も引き続き、スポーツ・文化交流など、積極的な交流を実施し、姉妹都市・友好都市との人的ネットワークをさらに深めていきます。

今後の取り組み・展望
平成26年度には、京都縦貫自動車道、舞鶴若狭自動車道が全線開通し、広域交通の利便性が格段に高まり、ヒトとモノの流れが大きく変わります。このビッグチャンスを的確に捉え、大型クルーズ客船の寄港などを活かした着地型観光の推進や人流、物流の拡大に向けたポートセールの強化などに取り組んでいきます。また、京都府においても、府北部地域を全国でも有数の競争力のある観光圏とする『「海の京都」観光推進事業』が新たに打ち出されました。本市としても、京都舞鶴港を軸に「赤れんが」と「海・港」をシンボルイメージとした取り組みを行い、地域資源を最大限に活用していきます。京都府の観光と同様に質の高い観光圏を目指し、府北部5市2町が一体となり、総合的かつ計画的な観光関連事業を進めていきます。

すものとなりました。
さらに来年度には、今年を上回る11万トンの豪華クルーズ客船「ダイヤモンド・プリンセス」の寄港が決定しています。
今後、外航クルーズの誘致に向けた取り組みをさらに進め、市民の皆さんと「おもてなし」の気持ちを持って、まち全体で歓迎ムードを作り、舞鶴の素晴らしい魅力をアピールし、クルーズで来られる観光客の皆さんの満足度を高めることで、クルーズ客船の寄港回数の増加と観光産業の振興につなげていきます。

京都舞鶴港の整備
クルーズ客船の寄港回数の増加やコンテナ航路の拡充が進む中、国において「舞鶴国際ふ頭」の岸壁が約70メートル延長され、350メートルとなることと決定されました。
今後、コンテナ船RORO船の2船同時接岸やアジアを航行する世界最大級のクルーズ客船の寄港が可能となり、さらなる港の活用が期待されます。また、現在、京都舞鶴港東港前島ふ頭では、大型フェリーの接岸が可能な岸壁とするため、増深改良や泊地の浚渫を実施しているほか、（仮称）前島歩道橋の周辺の護岸整備事業などを進めています。

高速道路と港湾施設とのアクセス向上
京都舞鶴港の利用促進と物流拠点機能の強化を図るため、高速道路と港を結ぶアクセス道路「国道27号西舞鶴道路」や「臨港道路」の整備に取り組んでいます。

国際海上コンテナ航路の拡充
コンテナ航路については、今年5月に韓国航路が週2便化され、中国航路の週1便と合わせて、週3便となります。

「海・港」を活かしたまちづくり

本市では、「東アジアに躍動する国際港湾・交流都市」を都市像に掲げ、対岸諸国との経済交流の拡大を目指し、港の整備や高速道路とのアクセス向上に取り組んできました。

そのような中、平成23年11月に京都舞鶴港が、国から「国際フェリー・RORO船」、「国際海上コンテナ」、「外航クルーズ」の3つの機能において日本海側拠点港に選定されました。これにより京都舞鶴港を活用した地域経済の活性化に向けた取り組みに大きな弾みがついたところです。

今後、京都舞鶴港が関西経済圏における東アジア地域に向けた日本海側ゲートウェイとしての機能を果たすため、多目的国際ターミナル「舞鶴国際ふ頭」を核として、ヒト・モノの交流の促進、港の整備・振興に取り組みます。

国際フェリー航路の開拓

昨年、国際フェリー定期航路の早期開設を目指し、山田啓二・京都府知事をはじめ、府北部7市町長や経済界の代表者などの参加を得て、京都舞鶴港から韓国・浦項港への試験運航を実施しました。

引き続き、京都府や浦項市と連携した取り組みを進め、京都舞鶴港を通じて、韓国や中国などの対岸諸国との人流・物流を盛んにし、本市や府北部地域の活性化につなげていきます。

外航クルーズの誘致

昨年度まで、「飛鳥II」や「ばしふいっくびいなす」など国内のクルーズ客船を受け入れてきました。今年度は、5月と7月に「サン・プリンセス」、6月と9月に「コスタ・ピクトリア」の7万トンを超える過去最大のクルーズ客船が京都舞鶴港に寄港。1,000人以上の外国人観光客が舞鶴のまちなかなどを散策しました。その光景は、まさに「国際港湾・交流都市」舞鶴を表した。今後、韓国・中国・ロシアとの航路網のさらなる拡充に向け、集荷活動の強化を図り、新たな貨物の創出に向け、対岸諸国で開催される展示会への出展などの取り組みを進めます。